



# 近現代中国の社会に関する研究

[キーワード: 満洲、華北、台湾、社会]

教授 荒武 達朗

## <研究の概要>

主に18世紀以降の中国社会の姿を多角的に描出することを目的としている。具体的な研究の方向性は以下の通りである。

### ①華北から満洲への漢民族の移民

明末清初にほぼ空白地となった満洲へ、清代を通して漢民族は流入していった。20世紀に入ると当地の漢民族はさらに増加し現在1億人を超える規模へと膨れ上がった。この移民の下での社会のあり方について研究する。

### ②日中戦争下・国共内戦下の華北社会

国民党軍、日本軍、そして共産党軍が対峙する地域社会の内部の社会関係を考察する。併せてこの状況下で共産党がどのように地域社会に政権を確立し、地域支配を実現できたかについて議論する。

### ③徳島県民の日本統治下台湾への移住

1910年代の徳島では北海道、朝鮮、台湾への移住ブームが起こっていた。この内、台湾東部の花蓮の吉野村(徳島県出身者にちなんで命名)へ向かった移民について考察を深めている。

## <主要研究業績>

・荒武達朗(2008)『近代満洲の開発と移民:渤海を渡った人びと』汲古書院

・荒武達朗(2017)「“闘争の果実”と農村経済:1945-47年山東省南東部」『中国研究月報』71-10、中国研究所、1-16

・荒武達朗(2017)「明治末年徳島県における台湾移民の送出:北海道、朝鮮そして台湾」『文明21』38、愛知大学国際コミュニケーション学部、31-47

・荒武達朗(2016)「嘉慶年間中国本土の郷村役:南満洲地域との比較」『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』24、徳島大学総合科学部、25-74

・荒武達朗(2016)「1938年黄河決潰事件と『新黄河流域図』」『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』24、徳島大学総合科学部、75-92

## 専門分野:

E-mail: aratake@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7148

Fax: 088-656-7148

詳細情報: <http://http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/60552/profile-ja.html>